

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【6月度の御金言】大地はささばはづるとも、虚空をつなぐ者はありとも、潮のみちひぬ事はあるとも、日は西より出づるとも、法華經の行者の祈りのかなはぬ事はあるべからず。 『祈祷抄』(全集 1351 頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心) v
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顯正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。

法華經は一切衆生成仏を説く唯一無二の教えであります。合わせて、仏の生命、森羅万象全ての生命の本質を説いている唯一無二の教えであります。

つまり、自分達の生命そのものを説き尽している法なのであります。自分の生命(心)の外の事を説いているのではなく、又自分の生命の外に存在する仏に、助けて下さい、救って下さい、守って下さいと、おすがりするのではなく、全ての生命に本然として仏の生命が具わっていることに気付きなさいと説いているのであります。ならば、その事を示す南無妙法蓮華經の法を本尊とし、南無妙法蓮華經の法を御題目として唱え、南無妙法蓮華經の法に叶う生き方をしようとする事は、誰の為でもなく全て自分自身の為なのであります。御題目を唱えるという事は、心に微塵でも信ずる心が無ければ唱える事は出来ません。【御題目を唱える為に生きて来た自覚を持とう】とは、言い換えれば【自分の本当の姿に目覚めよう】という事を言っているのであります。創価学会で教えられたような、病気が治る、御金が儲かると言った願い事を叶える為に唱えるのでないのであります。自分を含む全ての生命に本然として仏の生命が具わ

っている事に気づかないで一生を終えてしまったならば、本当の自分を知らないで生涯を送ったという事であり、これ程残念な事はないと日蓮大聖人説かれているのであります。